



主図版① 「遊藝」

# 「落ち穂拾い記」

## ③宮田遊記山人の「遊藝」二字

ゆうげい

現代

①「遊於藝」



遊記山人の篆刻  
(①～⑤)

④「蘇翁九十以後」



②「伊豆山人」



⑤「蘇翁甲午九十有二」



③「再生蘇翁」



前回の胡蘭成の書の箱書きをした宮遊記山人（1891～1993、本名は武義）の書である。

東亜同文書院卒、広東料理「山水樓」を営み、徳富蘇峰をはじめ内田康哉や細川護立、近衛文麿、頭山満、胡蘭成、溥傑など政界や文化人と多くの交流があった。学生の頃、この人の銀座での個展を見たことがある、会場の隅のテーブルでやや大きな古墨を磨りながら半

切に唐詩を書かれていた。詩文を詠んじながら、のびやかにゅつたりと筆を運び、一気に楽しそうに書かれていた光景を記憶している。手元にある遊記山人の資料の中に、昭和43年（1968）に銀座の壹番館画廊で開催された薄いパンフレットがある。その巻頭に作家・川端康成が「遊記山人の書」とする一文が載せられている。

始めに「胡蘭成氏の書を見ていた時、連想としてか、私は宮田武義氏の書、その清高な風格と古雅な氣韻の書がしきりと思われた。宮田氏と親しい立野信之氏に私はそのことを伝え、宮田氏の書を恵まれたいものと言った。……」とあり、後半で頂いた書に關して「……瘦硬はじめて神に通ずともいう肉細の書体が多いが、骨はあって硬くなく、温かい滋味にうるほひ、心と手がよく筆を転じて円滑ながら、達者の臭味はなく、まことに高爽の名筆である。また宮田氏の大字には肉太の書体もある。まことに潤筆と渴筆の映発、調和の妙が見られる。……」と評されている。また篆刻も善くされ、世の篆刻家らしからぬ独自の趣の作品がある。図版に示したのは戦後、徳富蘇峰氏の為に刻された数件である。①「遊於藝」、②「伊豆山人」、③「再生蘇翁」、④「蘇翁九十以後」、⑤「蘇翁甲午九十有二」

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。  
伊藤滋（書斎名・木鷄室）

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2016)



「春のほか知らぬ雛を飾りけり」  
鶴田玲子句

狩野 翠桂



早春、ひな壇に並べられた人形の何ともほほえましい情景が見えてきて、書いてみたいと思いました。私は、近代（現代）詩文書等の創作は、あまり作意を前面にお出しのことのないよう、自然に、心のままに運筆したいと思っていますが、ユーモラスで温かい句を表現できたかは思ひなやむところです。どうでしょうか。

私は、中学・高校・大学と、宮城学院で教育を受けました。卒業してから、母校の宮城学院女子大学日本文学科で書道の授業を担当致しました。

た。

ら離れません。と言いますのは私の書の師である加藤翠柳先生が、いつも言われている言葉だからです。

翠柳先生とのご縁は先生のお宅と、私が近く、また翠柳先生の奥様と、私の母が「P.T.A」の役員として大変親しくしておりましたことがきっかけでした。その頃、翠柳先生は宮城野書人会を創設し、大人の方々を指導されておりましたが、子供1人（私）のために、お手本と書道用具一式を用意して下さいました。しかし、先生は手を取って下さる事もなく、書き方の指導もなさいません。私が書いたものを全部おいて帰りますと、次の週に前回の作が添削してあり、また次の手本が用意されています。先生のご指導はこのくり返しでした。寛容なお姿の中にも、ひたすら努力することの大切さを教えて下さる姿があつたと振り返っています。

その後、先生のお宅は米ヶ袋に転居され、毎週水曜日の夕方から大人の教室（尾形鼎山先生が助手）、日曜日は学生の教室（私が助手をさせていただいた）と、お弟子さんも大勢になっていきました。

翠柳先生は「書道芸術院」発足当時からその活動に参画されましたが、熱海・赤城山・府・東北各地の講習会に先生のお供で参加させていただいた事は良い思い出です。これからも自分の身の丈にあった、そして楽しい書の道を求めて努力して行きました。

狩野翠桂書

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 書道芸術院中興の祖 恩地春洋先生ご逝去

本院が平成元年に神田へ事務所を移して以来、種谷扇舟先生と精力的に運営の実を上げられ、平成16年7月文化庁より財団法人認可、平成25年には内閣府より公益財団法人の認可を受けるなど、正に書道芸術院の中興の祖として心身を投げ打つてご尽力いただいた恩地春洋先生が平成28年6月14日ご逝去された。享年87歳。毎日書道会はじめ日本書道連盟など全国的な活動も精力的にこなされ、特に毎日新聞社主催の国際高校生選抜書展（書の甲子園）の創設発展につくされたご功績は特筆される。本年25回目の記念展を迎える書の甲子園では実行委員長を辻元大雲が務めさせていただくことになります。奇しきご縁をいただいたことに感謝したい。

本年2月銀座文春画廊、5月に故郷高知にて連続して個展を開催されるなど元気であられたのに、誠に残念、慚愧に堪えない。心よりご冥福をお祈りしたい。

- ・ 常務理事 下谷洋子（筆頭常務理事）
- ・ 理事 小竹石雲 ○後藤大峰
- ・ 理事 石井明子 板垣洞仙 ○稻垣小燕 金井如水 小浜大明
- ・ 監事 小林琴水 ○最首翠風 嶋峨
- ・ 評議員補充 大拙 坂本素雪 種谷萬城
- 春 蒼竹 ○浜田堂光 ○尾形澄神 ○川島舟錦
- 田守光昭 千葉蒼玄 名越
- 崎井恵風 ○高田幽玄



第67回書道芸術院展出品作品  
「翔」

## （公財）書道芸術院評議員会・理事会開催 新体制発足

5月31日（火）午後、東京文具会館

にて定例評議員会が開催され、平成27年度事業報告承認、同決算報告審議を行った。全員一致で可決した。また任期満了に伴う理事・監事の選任、併せて評議員の補充選任も行った。

6月11日（土）午後、新たに選任された理事、監事による理事会が開催され、理事長及び常務理事ほかの選考を行い左記の通り決定した。（○新任）

・理事長 辻元大雲

・常務理事 下谷洋子（筆頭常務理事）

・監事 小竹石雲 ○後藤大峰

・評議員補充 石井明子 板垣洞仙 ○稻垣

## 書道芸術院創立70周年記念ウィーン展会場交渉で訪欧

6月13日～17日の間、オーストリア・

ウイーンを第19回国際親善ウイーン書道展、ワーカーショップ開催などのため担当の谷脇梅翠参与と共に辻元理事長が訪問した。日本大使館広報文化センターを会場とした国際親善ウイーン書道展では14・15両日午後各20名余の参加者へのワーカーショップが楽しい雰囲気の中開催された。新しくセンター内に秋田杉を活かした和室も出来上がり大いに盛り上がった。

70回記念展会場は市内のヘルナルス

市民大学の入り口ロビーをお借りし、

日程も来年10月中旬の約10日間、会期

中にワーカーショップ、デモンストレー

ションなどを計画することで決定した。

この会場は10年前の60回記念展の折に

お借りしており、打ち合わせも順調

に済んだ。

## 第29回平成28年毎日書道顕彰協会（団体）の各氏に

平成27年4月より28年3月末までに

書道に関する芸術・学術・教育・啓蒙

に著しく貢献した個人及び団体を顕彰

する制度で、今回は鈴木響泉氏（朝聞

書会・個展開催）に芸術部門、吉田青

雲氏（奎星会・個展開催、諸活動）に

啓蒙部門、高野山書道協会（競書大会

50回開催、開創120年記念大会）に団体

特別賞がそれぞれ贈されることになっ

た。表彰は7月17日第68回毎日書道展

表彰式の前段で授与される。

第68回毎日書道展審査

5月の未表装鑑別を受けて表装後の

入選作と会友作品を対象とした入賞決

定の審査が6月24～26日に、29日には会

員賞選考、30日には文部科学大臣賞選

考が国立新美術館で行われ、7月初め

に正式発表される。

・ 参事 ○飯高和子 ○大野祥雲

○小伏小扇 ○牧泰濤

・ 名誉会員 ○砂本杏花

・ 参与会員 ○千葉耕風

詳細は後日発表される。



ワークショップの参加者と

## 現代詩文書 (四)

畠中弄石

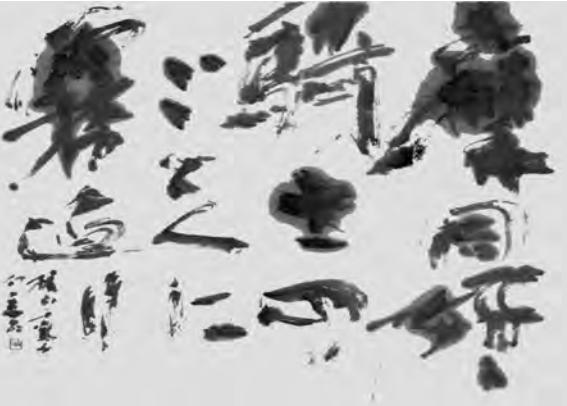
## 漢字 (四)

稻垣小燕

展覧会へ行こう

書を志す人たちにとって、書を学ぶためのいちばんの宝庫は展覧会の会場の中になります。実力作家が集う展覧会ではあるほどたくさんの資料が会場に並んでいます。

日本詩文書作家協会書展が6月7日



梶山千鶴子句「摩周好し騎士のごとくに霧迫り」畠中弄石書

から12日まで東京のセントラルミュージアム銀座で開かれました。テーマは「俳句と書の世界」で短詩型文学の書表現です。俳句という限られた字数の中で、限られた紙面の中でもかくも多様な表現の世界に魅せられ、圧倒されました。しかも出品者たちと話が出来て、選ばれた素材、そして作家にとっての必然的な表現、多くの作家たちのそれぞれを鑑賞すれば興味が尽きません。

今回私が出品した素材の俳人は北国人で、自然への畏怖と憧憬を感じさせる句「摩周好し騎士のごとくに霧迫り」をたっぷりと滲み利かせて幻想感を表現してみたが。

## 21世紀の書

—私の主張—



藤原敏行朝臣  
見えぬ風の音にはっと気づきその感動が和歌による表現となつてゐる。

古今和歌集卷四  
秋来ぬと　目にはさやかに  
見えねども　風の音にぞ  
おどろかれぬる

—

—

・心象としての表現

印象表現に続いて心象表現について書いてみようと思う。で

は印象と心象ではどこに違いがあるのか、対象物から受けた印象を表現するのと同じであるがここではあえて心象としたのは目に見えぬ物に対し心が動き、その心をもととして表現したものを取り上げてみようと思う。

たとえば和歌に、

天地を覆い、打ちつけ、雷も轟くよ

うな止むことを知らぬ雨の音を想像し

た時、大いなる自然の力に畏敬の念を

懐きそこには人知をこえた神のような

ものが在るのではないか、そんな思い

から「神」という作品になりました。

また前回の作品C・明日香に降る梅雨

の雨音からは、大和の山々を背に稻田

に降る雨音は柔らかく、早苗に、土の

中に消えてゆきます。そしてその音は古

じいじいを想起させます。作品「古」

になりました。

印象表現では雨の降る様子を視覚からとらえ文字「雨」で表現したのですが、ここでは雨の音を聞き心に思うことを表現することを試みこれを心象表現としました。



しき雨音」などを思い起こす方が少ないと思う。

前回の作品B・大陸の激しい雨の音、

天地を覆い、打ちつけ、雷も轟くよ

うな止むことを知らぬ雨の音を想像し

た時、大いなる自然の力に畏敬の念を

懐きそこには人知をこえた神のような

ものが在るのではないか、そんな思い

から「神」という作品になりました。

また前回の作品C・明日香に降る梅雨

の雨音からは、大和の山々を背に稻田

に降る雨音は柔らかく、早苗に、土の

中に消えてゆきます。そしてその音は古

じいじいを想起させます。作品「古」

になりました。

印象表現では雨の降る様子を視覚からとらえ文字「雨」で表現したのですが、ここでは雨の音を聞き心に思うことを表現することを試みこれを心象表現としました。

平成28年度 新審査会員作品

II

田中喜美枝（漢）・山崎皐月（漢）・治田芳江（か）・佐々木一峰（現）

田中喜美枝  
(大阪)

「萬物生光暉」



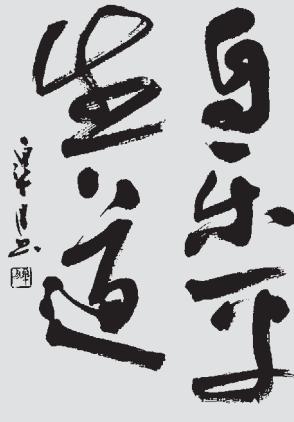
治田芳江  
(群馬)

五言古詩の一部。作者不詳。  
結末の二句「少壯不努力」  
老大乃傷悲」が身にしみる。  
三年前の網膜剥離以来、色が  
わかる、本が読める、字が書  
けるのは、当たり前の事では  
なく、在り難い事だと知った。  
一度、闇を経験した眼には、  
すべての物は光り輝いて見え  
る。

(喜美枝)

山崎皐月  
(大分)

「自樂平生道」



佐々木一峰  
(宮城)

庭先の季節の移ろいを楽し  
みながら、学書の日々の幸せ  
をうれしく思っています。  
この度の「審査会員昇格」  
は、書道芸術院の先生方はじ  
め、牧泰満先生の寛容なご指  
導、先輩、仲間に恵まれたお  
陰と感謝でいっぱいです。  
少々重荷ではあります、が、  
気を引き締め精進したいと思  
います。

(皐月)

田中喜美枝  
(漢)

「萬物生光暉」



「夕風や白薔薇の花皆動く」

正岡子規の句



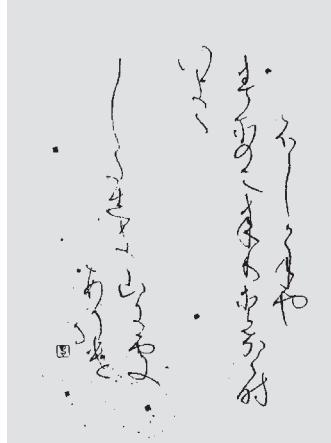
佐々木一峰  
(宮城)

この度、審査会員にご推挙  
いただき、ありがとうございます。  
ご指導いただいた下谷  
洋子先生はじめ諸先生方に心  
より感謝申上げます。

躍动感と艶のある線を求め  
て作品に取り組んでいますが、  
書の世界は深遠。諦めずに続  
け、いつか分かる日が来るこ  
とを信じて、歩んで参ります。

佐々木一峰  
(現)

「自樂平生道」



「夕風や白薔薇の花皆動く」

正岡子規の句

この度は審査会員にご推挙  
いただき、ありがとうございます。  
若山牧水の歌  
「富士が嶺や裾野に來り仰ぐ  
ときいよよ親しき山にぞあ  
りける」

(芳江)

この度は審査会員にご推挙  
いただき、ありがとうございます。  
若山牧水の歌  
「富士が嶺や裾野に來り仰ぐ  
ときいよよ親しき山にぞあ  
りける」

(芳江)



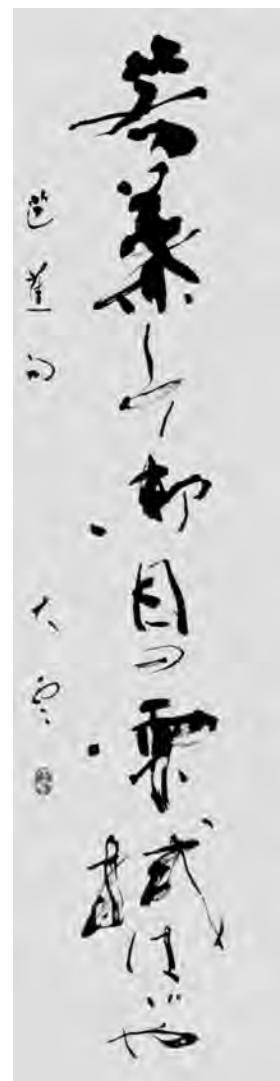
この度、審査会員にご推挙  
頂き大和小舟、坂本素画先生  
はじめ宮城野書人会の先生  
方、書友の皆様のお蔭と感謝  
致しております。

作品は調和と想いが表現で  
きるようなものにしたいと願  
っています。この機会をスター  
トに新たな気持ちで前向きに  
一層精進を重ねて参ります。

第34回  
日本詩文書作家協会書展  
俳句と書の世界

会期 平成28年6月7日（火）～12日（日）  
会場 セントラルミュージアム銀座

松尾芭蕉「若葉して御日の零拭はばや」



辻元大雲書



鍵和田柚子「少年の瞳して…」  
砂本杏花書



飯高和子書

長谷川権「みちのくの山河勵哭初桜 他」

長谷川櫻「白牡丹花びらを水こぼれけり」

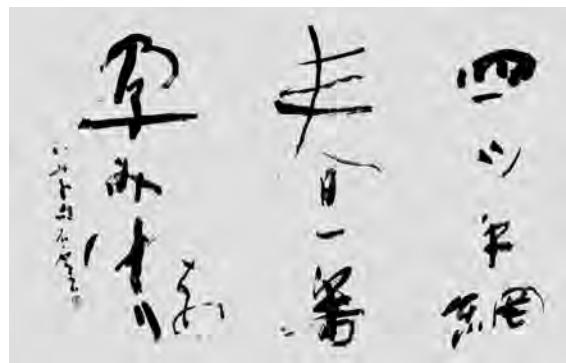


下谷洋子書

千葉かん二「満開の椿くぐれば太平洋」



浜田堂光書



赤木ふみを「四つ手網春一番を孕みけり」 小竹石雲書



自詠「燕島に戻りし鷗復興飛」 坂本素雪書



梶山千鶴子「摩周好し騎士のごとくに霧迫り」 畑中弄石書



深代 韶「沈む木よ深潮なす星空よ」

金木和子書

自詠「一片の煌めく雪や旅の空」



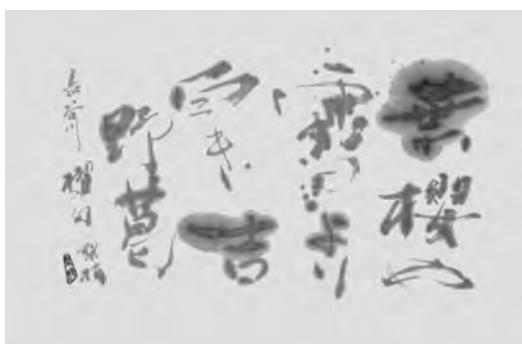
藤田湘子「アカシヤの花こそ曇れ野鐵冶の火」熊谷宗苑書

尾形澄神書



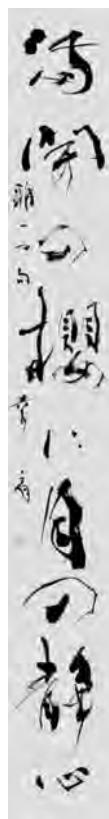
島谷征良「一人静踏まねば行けぬ竹の奥」

池田雅一「満開の桜に月の静心」



長谷川権「葉桜や雪より白き吉野葛」田中梨梢書

佐久間幸扇書



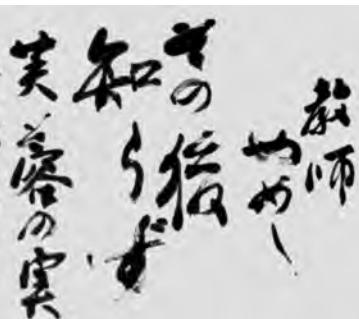
半田藤扇書

中鉢 史「廃船のかげに…」 阿部 翠麗書



井上弘美「流氷原を行くたましひの青むまで」 広瀬 舟雲書

登四郎「教師やめしその後知らず芙蓉の実」



能村登四郎「教師やめしその後知らず芙蓉の実」 片岡豪峰書

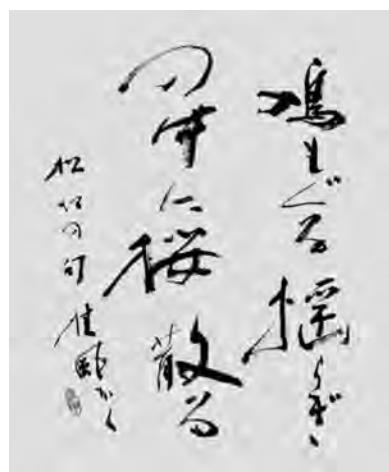
豊長みのる「霧氷林北壁の天鉛をしぶり」 木村笙園書



飯田龍太「五月なほ雪舞ふ国の山ざくら」 伊藤翠心書

久保田万太郎「竹馬や…」

武山櫻子書



丸山松江「鳩もぐる…」中山田桂風書



富沢赤黄男「蝶落ちて…」 高田幽玄書



石田波郷「風に舞ふ白椿…」 鈴木承琳書



長谷川權「禪僧とならぶ仔猫の昼寝かな」高橋四蓮書



川端茅舎「きりきりと眠れる合歡に昂かげ」高橋真舟書



飯田龍太「かたつむり甲斐も信濃も雨のなか」 本郷清浩書



江守のぶ子「うすら雪羅漢の寺の放し鶏」 酒井優子書



尾形 崇「言霊の永遠に響けり夏の陣」 吉田景輝書



与謝蕪村「蜻蛉や眼鏡をかけて飛歩行」坂本龍水書

△院関係出品者名▼	
辻元大雲・飯高和子・砂本杏花・小竹石雲	
坂本素雪・浜田堂光・畠中弄石・下谷洋子	
尾形澄神・金木和子・熊谷宗苑・佐久間幸扇	
田中梨梢・半田藤扇・広瀬舟雲・阿部恵泉	
阿部翠麗・伊藤翠心・片岡豪峰・木村笙園	
鈴木承琳・高田幽玄・高橋四蓮・高橋真舟	
武山櫻子・中山桂風・酒井優子・坂本龍水	
千田春月・本郷清浩・吉田景輝	



阿部みどり女「咲き満ちて天の簪百日紅」 千田春月書

薦季直表（魏・鍾繇）①

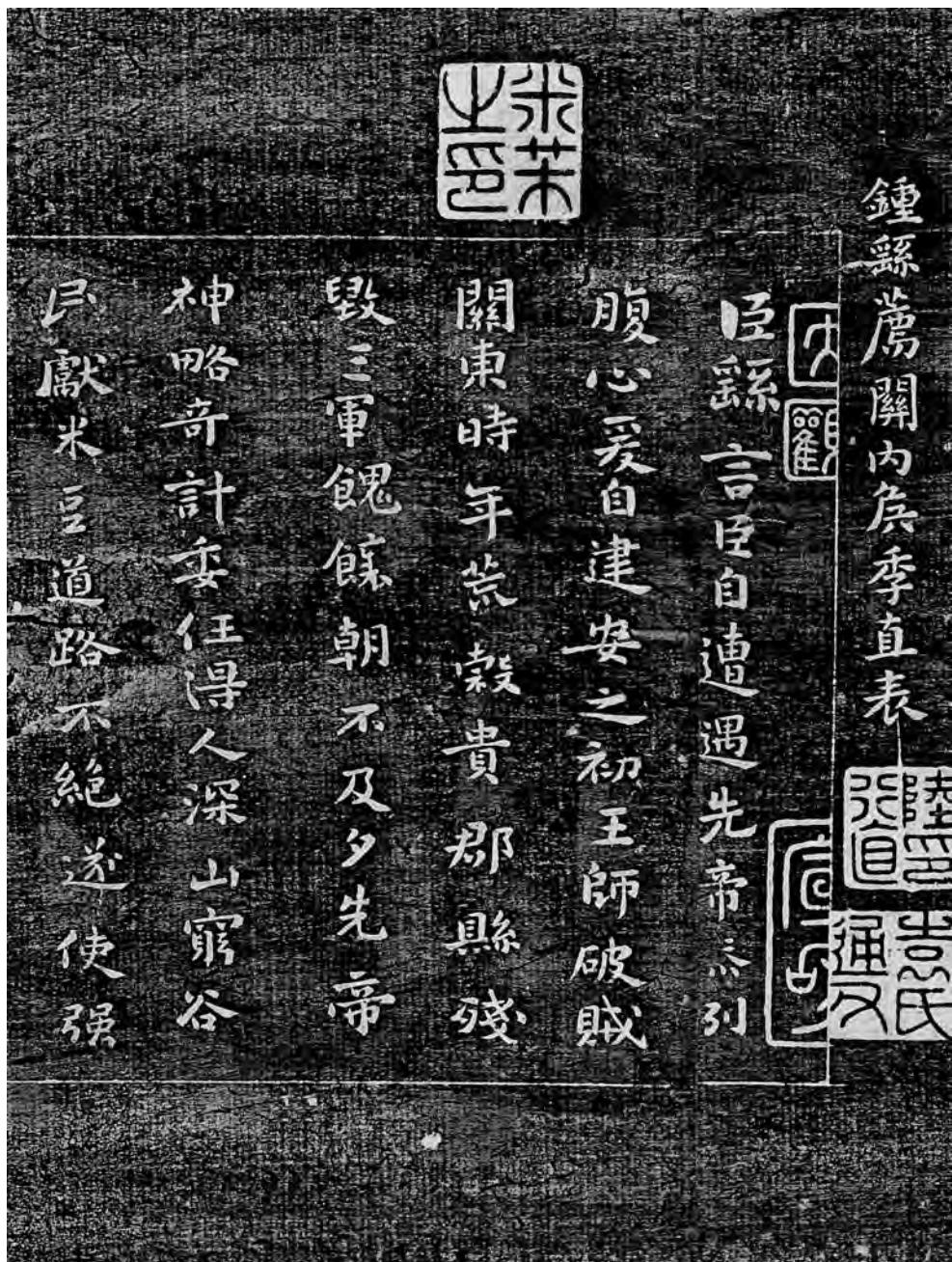
漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由)

当該古典の左記掲載部分以外も可。



真賞斎帖より (85%縮小)

**解説**  
薦季直表は、三国時代・魏の黄初2年(221)の作と伝えられている。鍾繇が魏の文帝曹丕に奉った上表文で、魏の建国にあたつて功績のあった関内侯季直という人物を推薦するために書いたものである。偽作とする説もあるが、素朴な趣のあるこの書は、古くから鍾繇の名品として尊ばれている。

薦季直表は数種の法帖に刻されているが、「真賞斎帖」の刻が最も精密とされ古意豊かな筆意を味わうことができる。(編集部)

\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

〈よみ〉毛ろこしにてつきをみてよみける

あまのはらふりさけみればかすがなる

このうたはむかしなかもるを、もろこしにものならはしにつかはした

あべのなかまろ

みかさのやまにいでのしきかも

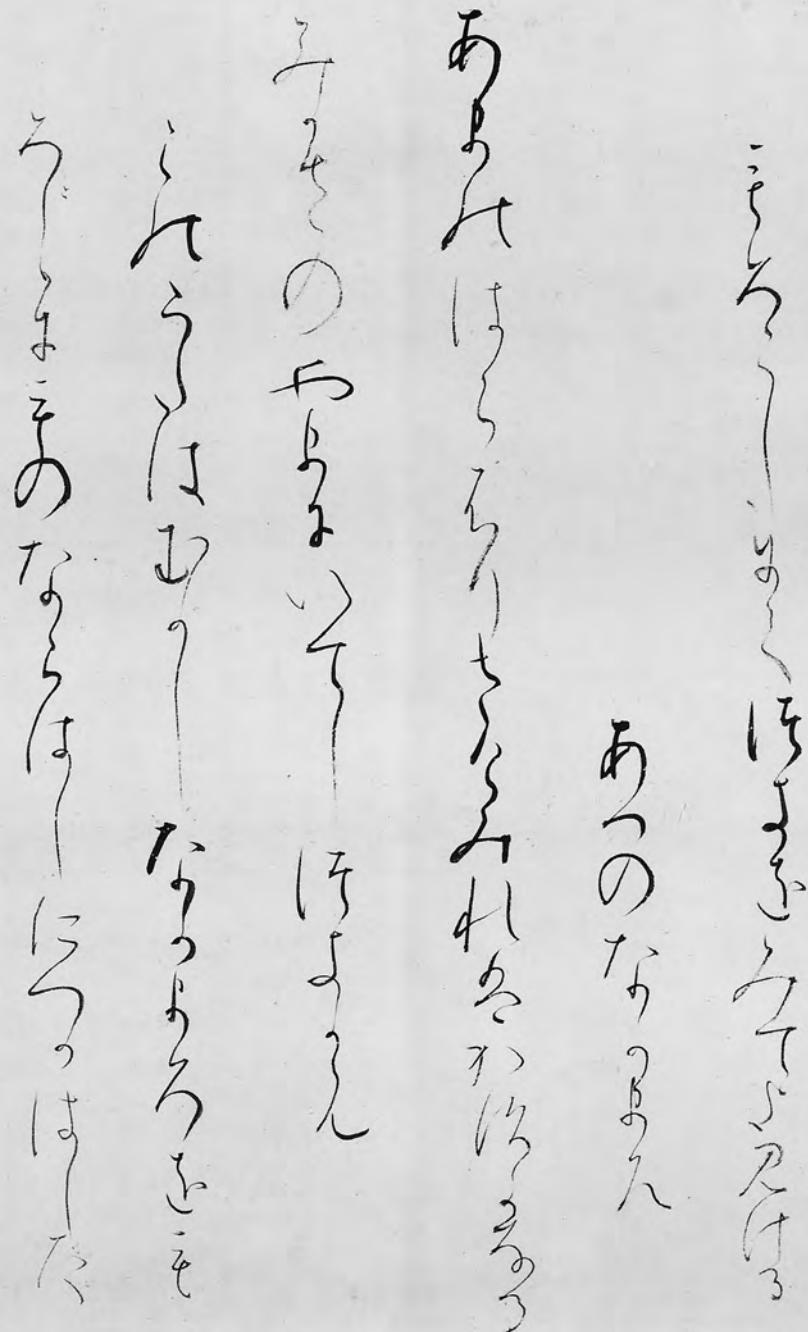
このうたはむかしなかもるを、もろこしにものならはしにつかはした

### かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)  
別紙を裁断して貼付も可。半紙絞は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

### 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。



(湯木美術館蔵)

〈解説〉  
高野切は、『古今和歌集』

現存最古の写本で、もとは20卷の巻物であったが、後に切り離され、現在、卷五・八・二十の完本、卷一・二・三・九・十八・十九の一部が断簡で残っている。『古今和歌集』卷第九の巻頭の断簡(大阪・湯木美術館蔵)が高野山に伝来(掲載部分)したことから、この一連のすべてが「高野切」と呼ばれている。筆者は、紀貫之(861?~945)と伝えられているが、実際は100年あまり後の11世紀中頃の3人の能書が分担して書写(寄合書)したと推定される。その書風から第一種・第二種・第三種に分類される。

この第一種は、優雅な落ちついた運筆で格調が高く、かなの典型を示す古筆として尊重されている。

(編集部)

習い方解説 (四)

半田 藤 扇

雙星駕彩輪  
(李調元)  
(双星彩輪に駕す)

牽牛織女の一星は美しき車にのつ  
ているとの想像に

今月は、隸書に挑戦です。

木簡からくる構成の安定性を極  
力重視してみました。

木簡にもいろいろな運筆法があ  
ります。また、隸書にも八分隸、  
古隸と表現方法が多彩です。漢簡  
の中にも、表現が数多く残ってい  
ます。字書を上手に用いて、あれ  
これと文字を置いてみるのも樂し  
い勉強方法になるのは……。

今回の手本は羊毛筆の短峰でリ  
ズミカルに明るさを表現してみま  
した。

雙星駕彩輪 よみ (双星彩輪に駕す)

書体=自由



習い方解説 (四)

竹本龍汀

樹陰讀書  
(魏伯起)

夏のすずしい木かげで読書する

是も亦消夏の一策。

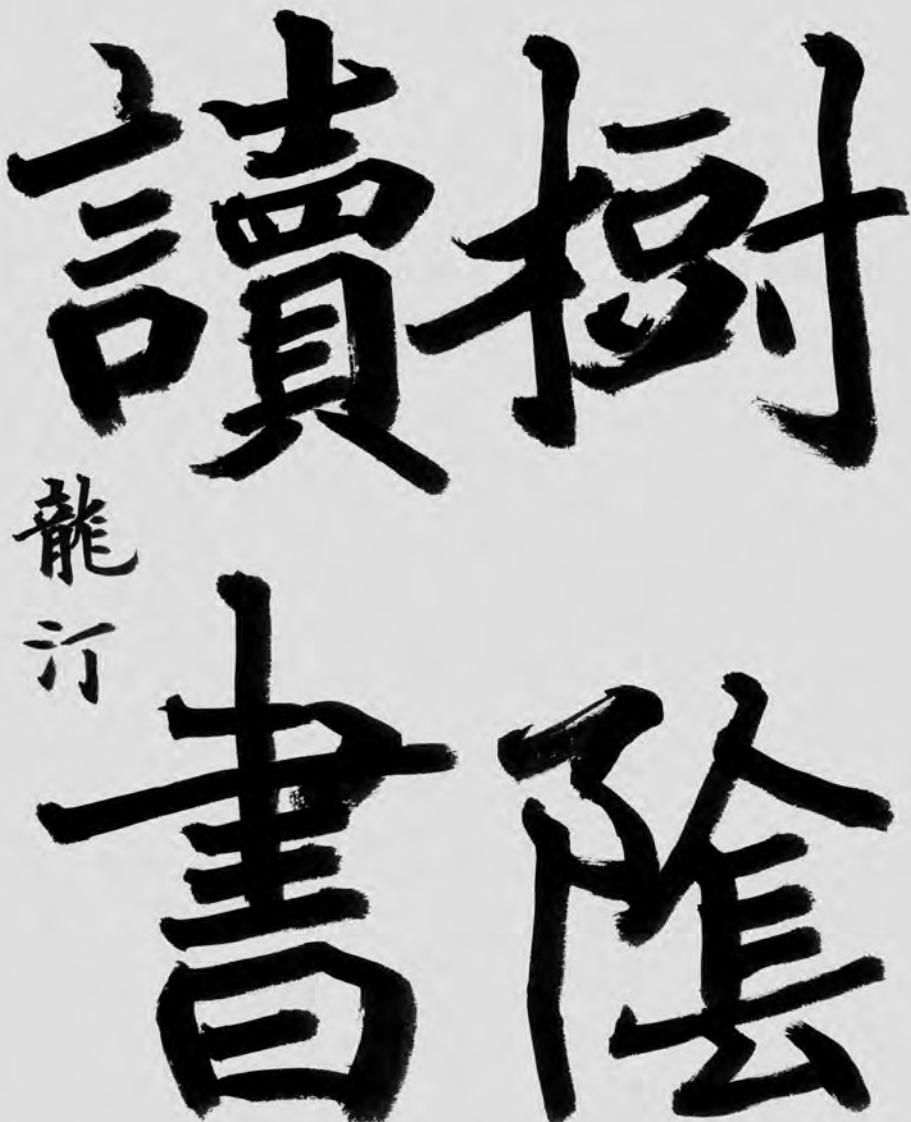
涼しい木陰での読書は心の開放になる。樹陰で伸びをする大らかで柔らかいイメージ。課題の文字「樹」「陰」「書」が北魏の鄭羲下碑の中にあることから鄭道昭の書風を用いた。

鄭道昭の書は鄭羲下碑と論經書詩が有名だ。自然の岩肌(磨崖)に彫られ、表面の風化も手伝つてうねりを帯び悠然とした丸みのある用筆が特徴だ。六朝の書は北朝系の方筆が殆どで起筆、点画に丸みを帯びた鄭道昭の様な円筆の書は少ない。ただ円筆といつても、注視すると方筆の意があり芯はしっかりしている。見れば見るほど趣がある。

手本の「樹」は鄭羲下碑にある書写体、「陰」も鄭羲下碑にあるが敢えて北朝系の書写体、「読」は旧字体を使用。書風は結構法を向勢に取り用筆は円筆を主体に方筆をおり交ぜた。

樹陰讀書 よみ(樹陰に書を読む)

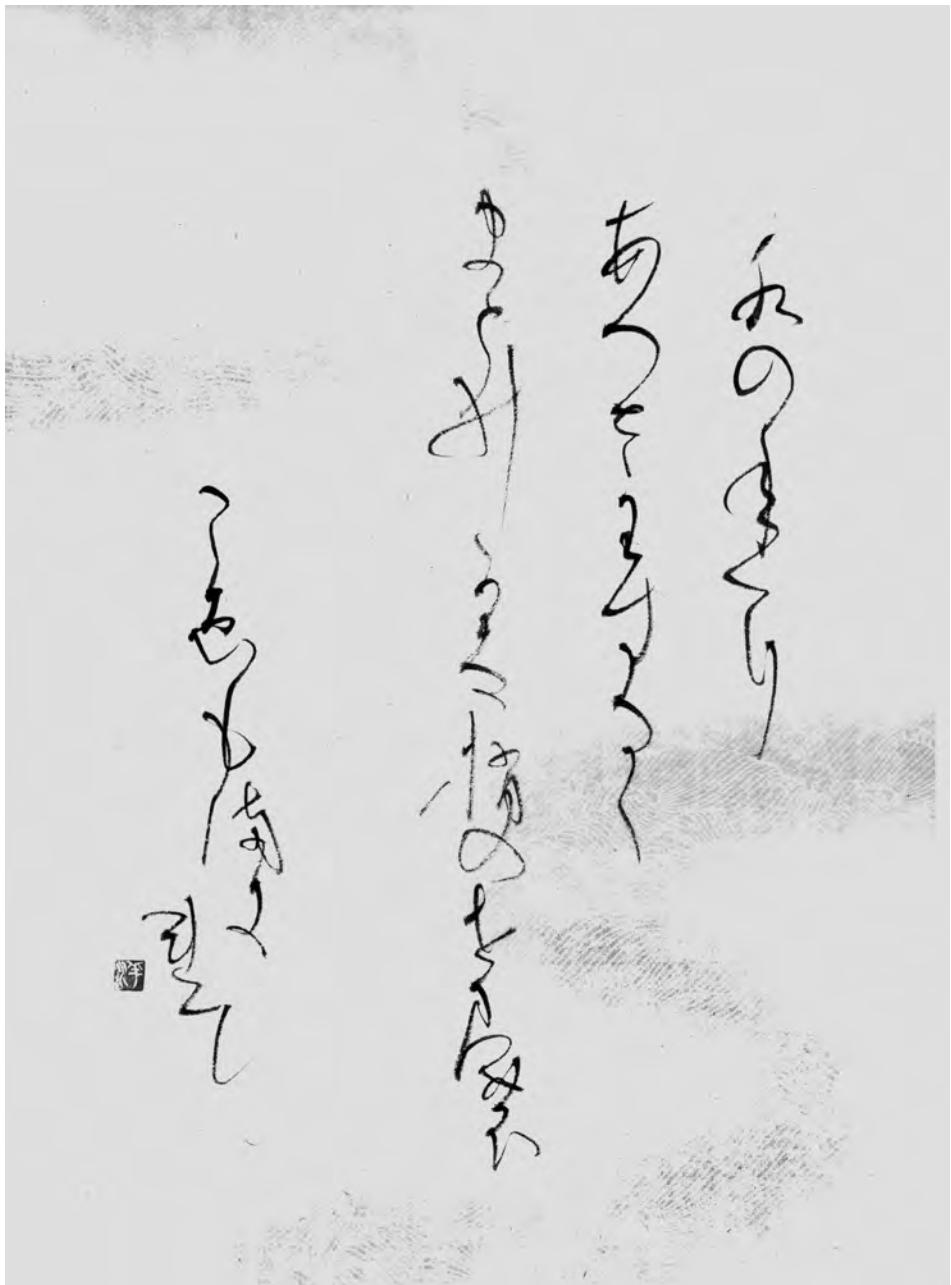
書体=楷書



下谷洋子

かなの音にあつさ忘るまとむかな  
梢のせみの聲もまざれて

(山家集)



よみ方 水の音(年)に(耳)あいつた(土)するる(へ)まとる(井)か(可)な(奈)  
梢のせ(世)み見(農)の(農)聲(こゑ)もま(満)ぎ(支)れ(連)て

創作

よる強弱のリズムは、一字では成り立たず、何字か集まって少しづく、含墨して間を詰めることで気は高まりに転じます。この、気によつて沈めることで行が呼吸して見える、それが氣韻生動になります。

一行の中の強い表現、筆を強く当たり、墨量を盛り字組みを密にして沈めることで行が呼吸して見えて、それが氣韻生動になります。

かなの流れの美しさが出せるよ

うに動く・線と見てきました。今

回は前回と重複する所もあります

が、気持ちの掛け方(強弱のリズム)について。“氣韻生動”とは

よく言われますが、かなにとって

の氣とは? 初めから終わりまで氣

が入り込んでいては息苦しく美し

くない。氣には緩急が必要です。

よい例とは言えませんが、三行目、

まと井辺りはゆつたりと色調も淡

く、含墨して間を詰めることで氣

は高まりに転じます。この、氣に

なにとつては掌握しにくいもので

はあります、念頭にして古筆を

見てみましょう。

かな規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 よのな(那)か(可)はむか(可)しよりやはうか(可)りけむ  
わが(可)みひとつ(能)た(多)めにな(余)れるか(可)

### 習い方解説 (一)

庄司紅邨

心あてにそれかとぞ見る白露の  
光そへたる夕顔の花

(源氏物語「夕顔」)

源氏物語、夕顔の巻で若き源氏  
と夕顔との歌のやりとりです。ほ  
のぼのとした光景が目に浮かぶよ  
うです。基本的な二行書で、行間  
で文字同志の響き合いを心がけ構  
成してみて下さい。

\*たて形式に限る

よみ方 心あて(亭)に(一)そ(曾)れ(禮)か(可)と(登)ぞ(處)見る白(や)ら(露)の

光そ(所)へた(多)る(畠)夕顔の(乃)花

創作

かな条幅規定【八月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄司紅邨選書



漢字条幅規定 初段以上 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯田春香選書

## 習い方解説 (四)

飯田春香



暮雲收盡清寒 銀漢無聲轉玉盤

(暮雲) 収まり尽きて 清寒流れ

銀漢 (蘇軾「陽閑詞三首中秋月」)  
声無く 玉盤を車す

書体=自由

暮雲は消え、すがすがしい涼気が満ち、天の川には玉で出来た盆のような月が昇って来た。爽やかな夕暮の情景が浮かんで来ます。画数の多い字が並びますが暑苦しくならないようすっきりと仕上げました。2字の連綿が続きましたが単調にならないように注意して下さい。

\*たて形式に限る

## 習い方解説 (四)

尾形澄神

尾形澄神選書



漢字条幅規定 秀級以下 【八月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

書体=自由

日暮れになって、しきりに哀愁がつり親友のことと思うの意。漢字研究部・薦季直表の雰囲気を取り入れ、そこに幾分か行意を加え自分なりの感性でまとめました。語意を噛みしめて書きました。書は言葉を書く筆意の芸術です。筆は全6回同じ、柔らく弾力のある細身の兼毫長鋒を使用。見た目は穏やかでも、骨力を内に藏した目

日暮思親友 (阮籍)  
(日暮れて親友を思う)

習い方解説 (四)

広瀬舟雲

あまり期待して  
お読みになると、私は  
困るのである。私は、  
そんなに面白い物語  
で無いかも知れまい。  
太宰治 春の盜賊より 每雲

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月から近・現代文学を題材とした  
ものに移ります。まず、太宰治の小説  
『春の盜賊』から、いかにも太宰らし  
い一面を記した一節をちょっと文豪風  
に万年筆で書いてみました。太宰の晩  
年は東京三鷹に住み執筆活動をしてい  
ました。お墓は同市内の禅林寺にあり  
ます。六月中旬の「桜桃忌」には、墓  
前に太宰の本や幾箱ものサクランボが  
供えられているだけではなく、墓標正  
面に刻された文字の中にサクランボが  
いっぱい詰め込まれている様子に驚き  
ました。この日は全国からそのファン  
達が集うそうです。昔の作家たちの多く  
は万年筆を用い原稿用紙に作品を書  
いていました。万年筆はボールペンよ  
りペン先の角度を少し寝かせて書きま  
す。ペン先の弾力と開閉、そしてモン  
ブランのキングブルーのような高級感  
のあるインクの色が万年筆の醍醐味で  
す。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

今月の

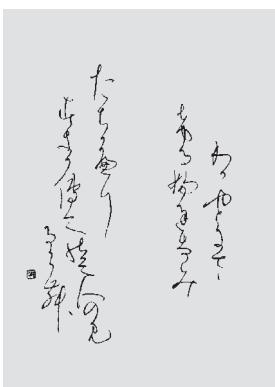
# ホープ作品 各部総評

No. 661

かな部 師範 近藤 淑子  
流れよく線質が典雅。リズムと呼吸が響き合い、布置よく古典美が漂う。明るい、味わい深い佳品。

◎かな部総評 総じて完成度が高く好ましい。変体がなの婦に曖昧が多く残念。字典の活用、母字の確認。

(明子評)



かな条幅部 準師 後藤 敬子  
後空きすぎたのは残念だったが、連綿の動きも理に適い、しなやかなりズムが今後を期待させる。

◎かな条幅部総評 堂・年の変体がな、声の草書など、特別な字でないとと思うが誤字が多かった。しっかり確認してほしい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 豊田 翠玉  
漢簡を基に創作。細太、曲直、長短の変化に富んだ線が躍動し、魅力溢れる。着実な学書の成果。

◎漢字条幅部総評 上級は創意に富んだ作が多く見られた。地道な古典学習の成果が發揮され好感が持てる。誤字に注意。

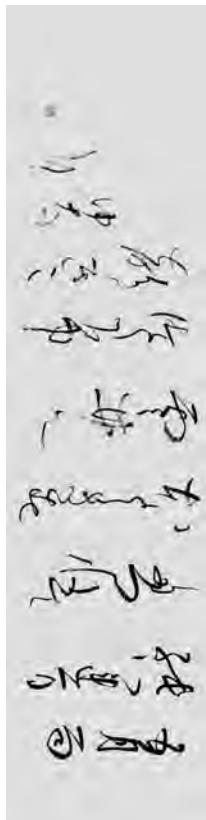
(萬城評)



前衛書部 特選 星野 成美  
潤渴と余白、滲みと飛沫の変化などママの噴出を想像させるエネルギッシュな作。

◎前衛書部総評 創造力と工夫、充実した線など、前進的な作が多く見られた。

(蓮紅評)



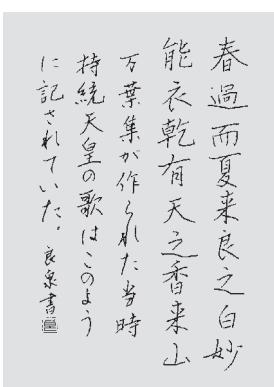
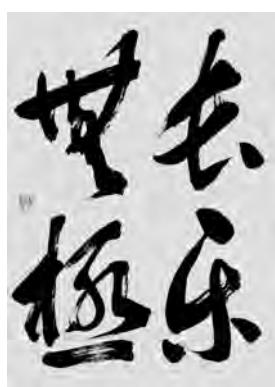
現代詩文書部 特選 斎田 舞夢  
書と余白の配分、題材の選び方、構成、用筆法など全てが備わって、すばらしい作品仕上りになった。

◎現代詩文書部総評 創意工夫された作品には魅力がある。楽しく自己表現して欲しい。(梓江評)

(梓江評)

漢字部 師範 名取 美紘  
大胆な運筆で広がりある草書表現作。たっぷりした筆致に豊かさを感じる。後半に力漲る。

◎漢字部総評 上級者草書表現が多かつたが字形不安定な作目立つ。下級楷書表現を含め字形のバランス、点画構成要注意。(大雲評)



ペン字部 師範 後藤 良泉  
穏やかで懐の広い運筆が見事。漢字とかなの調和、落款までの布置の統一感があり格調高い作品。

◎ペン字部総評 最初2行の表現で全てが決まる。穏やかで品格の高い作品が多く良い傾向。余白、布置は日頃から研究を。(和楓評)

高木良之白妙能衣乾有天之香来山万葉集が作られた当時持続天皇の歌はこのように記されていた。良泉書堂

今月の

# 特選 優秀作品研究部 別研究（特選）



180×60cm

臨書

(大雲)

宮原香扇

「皇甫誕碑」



58×177cm

「五言一句」

◆たっぷりと厚目の線質をベースに5行構成し安定感ある作。豊かな広がりを感じさせて妙。

(大雲評)

◆重厚な線で深さがあるが重さを感じさせないのは破筆の線の軽やかさか。空間もゆったりとして落着あり。

(蒼玄評)

◆日頃の古典の研究が生かされた重厚で力強くかつ雄大な作。横構成作品により広がりを感じさせる。

(京子評)

◆多様な筆鋒で紙面を圧倒している。直線と曲線が筆の開閉から生まれ、ひるみも感じさせない。

(多希子評)

◆黒と白を明確に分け目に鮮やかに渴筆が浮かび上がる。線の開閉も自由自在で筆の上下運動も見事である。

(蒼玄評)

◆強靭な線。輝きある墨色。空間をシャープに斬りしかも上下に響く。やや上部が重いか。

(京子評)

◆濃墨による潤筆と渴筆を上下に对比させ鮮烈な印象を与える作。運筆のリズムが強烈で力強い作。

(大雲評)



178×60cm

前衛書 (松風) 西條松雲 「適」

◆難しい生真面目な楷書を正面から取り組んで臨書する姿勢を買う。余白の緊張感が爽やかで好感。

(大雲評)

◆鋭く力強い書風を丁寧に鍛えぬかれた線・字形で全体をまとめあげた力作。空間への響きもよい。

(京子評)

◆羊毛だろうか? 少し入筆に厳しい発揮し、練度が高く習熟した作。貫して氣力こもった線条など特徴をよく捉えている。(多希子評)

◆重厚な濃墨の上段と、強靭としなやかさを兼ね備えた線条の下段。明、暗のアンバランスが楽しい。

(多希子評)

◆濃墨による潤筆と渴筆を上下に对比させ鮮烈な印象を与える作。運筆のリズムが強烈で力強い作。

(蒼玄評)



選評 小浜 大明

今月のホープ作品



近藤淑子

漢字研究部 特選 近藤 淑子  
皇甫誕碑は楷書の用筆、結体を学ぶ上で最も適な古典であると考えます。今回は見事な臨書です。

◎漢字研究部総評

小さな「点」に到るまで注意を払って良く観察し、楷書の筆法を正確に守って書かれた秀作です。特に趯(はね)の用筆は見事です。また、結体も整い、線質も明快な品格ある臨書です。

書が数多く寄せられました。反面、「解説」にある「背勢」で「側筆」という特徴とは逆の、「向勢」「直筆」といった表現をされた作品も少なくありませんでした。解説のアドバイスを良く読んで書かれることを望みます。なお、趯(はね)は、それぞれの文字によって方向や力の強弱が微妙に異なっていることにも注意を払って下さい。



菊萩春雅美法  
枝峯清芳梢子

小惠幸彩玲明日  
美桃子恵華子香

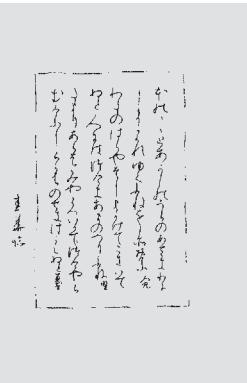
亞寬恵春節蘭  
希子子峰子花

雅佳靜典哲蒼  
悠月峰子子香

かな研究部  
(粘葉本和漢朗詠集)

選評 庄司紅邨

今月のホープ作品



宇田川 春華

◎かな研究部総評  
全体にのびやかに書いた作品が多く、粘葉本和漢朗詠集は日本人に愛されている古筆であることを改めて実感いたしました。原本の字形・文字の大小・墨の潤滑にさらなる観察を願います。

かな研究部 特選 宇田川春華

粘葉本和漢朗詠集の美しい連綿をよく理解し、縦書の呼吸を字形に気を配りつつ表現しています。筆先に緊張感をもち、作品に明るさと清楚さがにじみます。

かな研究部成績表

千哲翠	美勇香代	和良寿	佳昌幹
峰子陽	子介舟	子泉子	月子生

こA澄泉有こ洞 だI春泉秋だ書 秀	竹澄高や椿八 扇高崎ま翠戸	正生英澄玉やこ椿高紅清流A澄う澄春 華大峰春松まこ翠陵瑠月泉！春！る	特選
-------------------------	------------------	---------------------------------------	----

大生字今石五安作

石方井村川十嵐作

星美楠貴洋佳楊作

祥子麗泉子栄風

玉松芳東や蘭宗白大木土椿王鉾高生一竜

蘭伯間鼎苑珠雲曜氣翠松扇崎大宮泉

渡山森茂蒔堀堀平平橋野根豊鶴高鈴杉莊庄下坂齋貞倉北河小奥小川

青木百

葵郷信真律直絢由幸喜優つ紅陽飛翠雅稚睦祥合紫咏裕里杏松翠真惠星秋翠彩輝

溪紀子子水珠雲泉子子霞詢龍玉裕泉心風子千聰美美邑春徑華舟扇光峰香峯

菊大竜松如正東京華五硯大如石高澄華京長千正た洞玉青松上泉上春玉澄詢正春翠清こ大竜正書安A渡正誠秀や岩大松

月阪泉村人月華橋実仙葉水雲月習碧春仙橋月葉華か書川蓮草泉会泉汀松春扇華汀吟月だ雲泉華汀吟月だ辺華和明ま岩大阪村

新天浅青青作

阿井羽川木木多み

恵蕙な玉松月子江枝月

千松了覗竜大澄芳蒔椿奥大春墨た大蘭汐附若五生大白広梓蘭福大

正華北も秀梅高こた東土、澄陽う千覗花華大八春正や葉村か水泉雲春蘭原翠田阪生花か雲鼎風中葉葉大阪扇山雲

渋鹿猿佐櫻驚齊齊小小小小河高少久國工鉄北上神川川河金加加貝岡大大梅梅薄白植岩岩今猪伊伊板磯石石石谷田渡々木

知愛志簾雅龍美翠江舞晃純萩幸智白玄智理山三春萩典南茱優綾和寿春雅佳久喜一虹代春綾美祥陽心理紫悦青清翠喜津春

華江右芳貞梢香彩夢代風江子子董城子峽溪子汀仙子美敬香菜芳子子代美子祥子綠乃枝園光華扇邦子鳳耀径子子

明昌秀蓮書調清白桜竜も桟調春こ白千生白蓮泉祥生有前正大は土遊倉耕桜千大も春大竜玄翠旭高旭祥富香正明弘

遷漢苑韻紅游布月鶯草泉く江村布丁だ露葉大鶯紅会紫大秋橋華阪せは「氣雲吉雲草葉阪く汀雲泉穹柳老陵老紫貴書華漢舟外

206吉吉遊遊行大山守森望茂武宮松牧前本北船藤福春林浜長野西中土鳥戸富戸渡積土千近高住鈴杉菅須嶋渋谷由美子

名氏千由志翠幸紅一良紀香津龍桂翠蕙津洋陽翠清実美靖悦喜キ勝美香久奈瓊美子美香子枝子舟彩風子雲江子芳薰子子起美子

## 〔特別昇級試験臨書課題〕

高 貞 碑 (楷書)

漢字部

第一種 半紙に写真掲載の中から5文字を臨書・それ以外は不可



弱冠以外威令望。／除秘書郎。／麟閣

集字聖教序 (行書)

漢字部

第二種 半紙に写真掲載の中から12文字を臨書・それ以外は不可



潛莫覩。在智猶迷。况乎佛道崇虛。乘幽控寂。弘濟萬品。典御十方。舉威靈而

松風水月未之比其能詎能通智以故古潤朗仙露明珠詎能方其朗潤故以智通無累神測未形超六

松風水月未足比其清華。仙露明珠。詎能方其朗潤。故以智通。無累神測。未形。超六。

吾あ東粧し化まし家號を  
る逸民之桂久多シもハム

吾前東粗足レ作佳觀。吾爲逸民之懷久矣。足下何以

顏勤礼碑（楷書）

漢字条幅部

第一種 半切に写真掲載の中から14文字を臨書・それ以外は不可

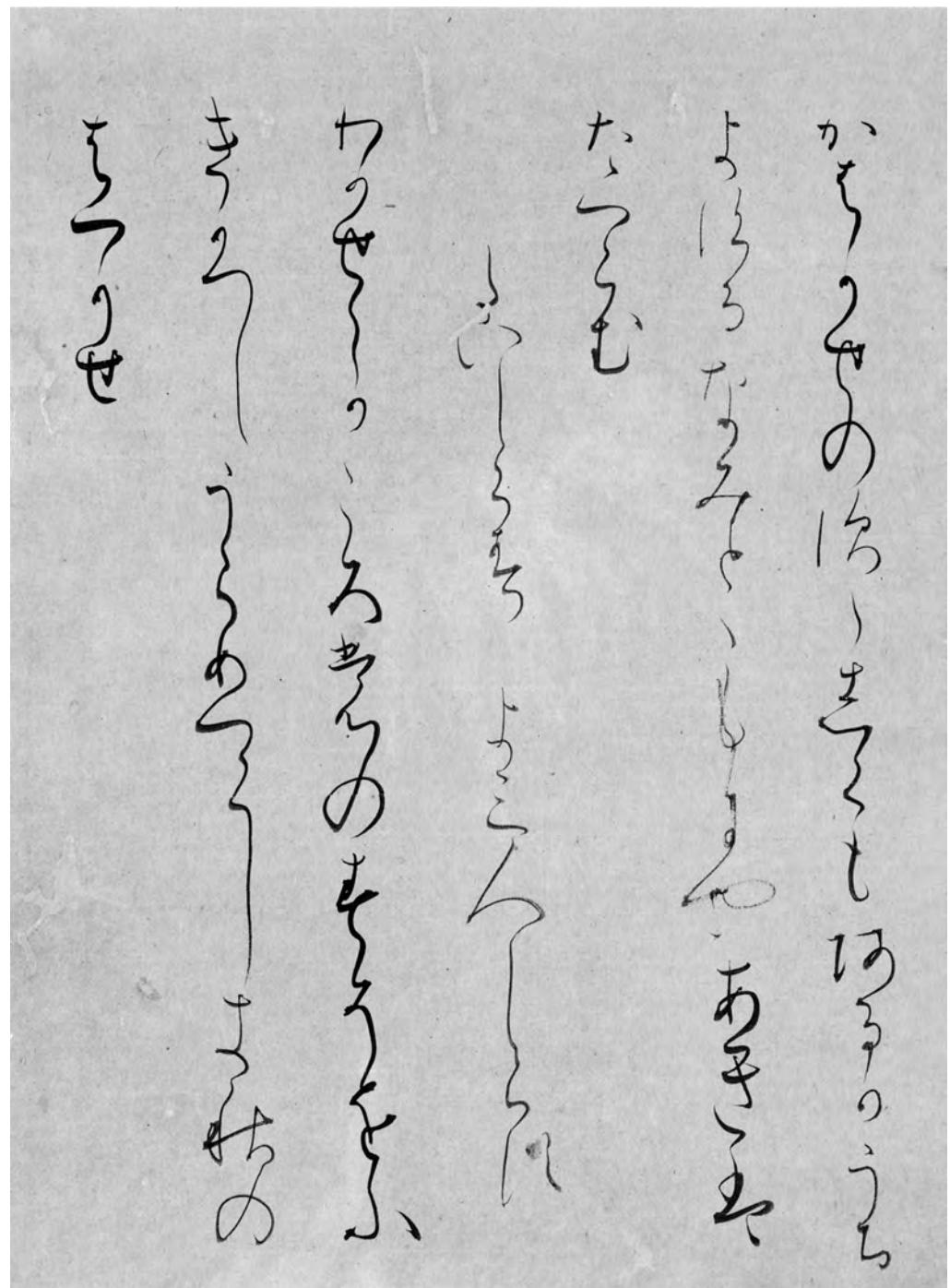


愍楚與彥博同／直內史省。愍楚／弟遊秦與彥將。

あきくればべにたはるゝをみなへし  
いづれのひとかつかつまですぐべき  
あきぢりのはれてもれをみなへ  
しはなのすがたもみえかくれする

あきくればべにたはるゝをみなへし  
いづれのひとかつかつまですぐべき  
あきぢりのはれともれをみなへ  
しはなのすがたもみえかくれする

半紙に「写真掲載の和歌2首を書く・それ以外は不可(料紙可)  
ことば書き  
詞書・読人は書かず、歌のみで可。(図版は89%縮小)



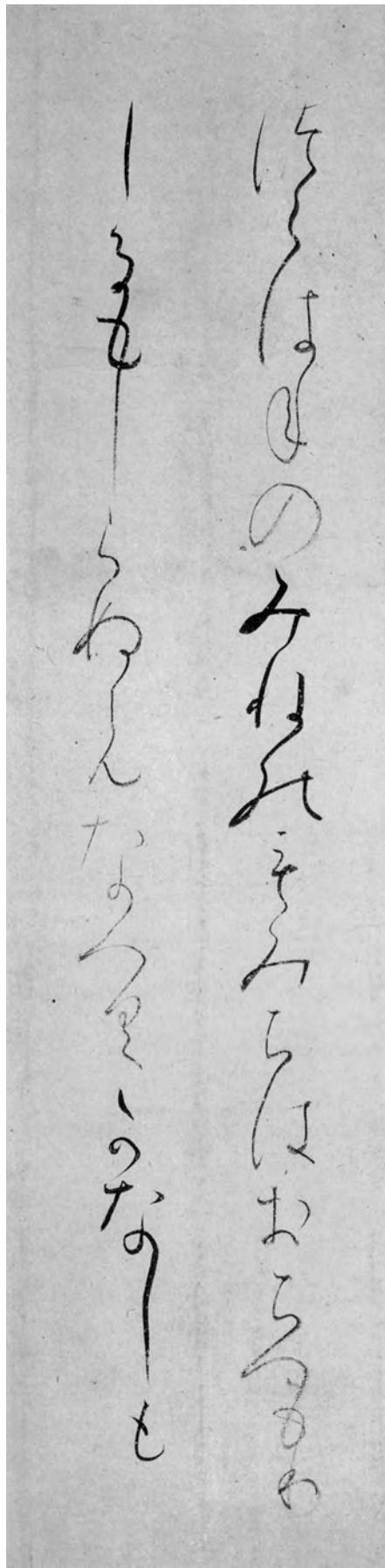
高野切第一種

かな条幅部

第三種

半切に写真掲載の和歌を書く・それ以外は不可 (料紙可) (図版は95%縮小)

つくばねのみねのもみぢばおちつあり利／しるもしらぬもなべくかなしも  
つくばね能毛年  
具可



ご注意!!

名前のかき方

どの部も氏名または名、号を書く。  
臨書は〇〇臨と書く。  
印だけでは失格、特にかな・ペン。  
字は注意のこと。

## 恩地 春洋先生

(公財)書道芸術院顧問、書道芸術院展名誉会員、漢字部・審査会員

平成28年6月14日ご逝去されました。享年87歳。

謹んで哀悼の意を表します。

2016年(平成28年)6月18日(土)

毎日新聞



## 恩地春洋さん死去

87歳 毎日書道会最高顧問

(白雲)の指導を受けた。2000年、毎日書道頭彰(芸術部門)。

1951年、師に従い大阪へ拠点を移した。86年、書道芸術院理事長に就任。93年に始まった国際高校生選抜書展(「書の甲子園」)の創設に関わるなど、書人の育成に尽力し

書道芸術院顧問。燕京書道交流協会会长。玄遠社会長。春洋会会長。

今年5月に故郷・高知で初個展を開き、最後まで現役を貫いた。18歳から始めた俳句をさらりと書いた。シリーズも印象に残る。

## 国際交流に尽力

恩地春洋さんは、いつもやさしい笑みをたたえていた。恩地さんの周りには自然と人々が集まつた。書に関する的確なアドバイスを聽こう、と。

国際文化交流をリード。韓国ともソウルや釜山で相互に書展を開催し、韓国書道界を代表する林炫折さんとの2人展を日韓両国で開いた。「書の甲子園」として浸透した国際高校生選抜書展を発展させた。

恩地さんとお別れの会を開く。自宅は大阪府松原市天美南5の12の4。喪主は妻時子(ときこ)さん。高知県生まれ。高知師範学校で川崎梅村

出品料無料。学校教育の中に書展を位置づけた。恩地さんの「遺言」。日本にいる留学生の協力を求める――。

恩地さんが呼びかけた精神が「書の甲子園」を支えている。「気持ちのこもった作品こそ、見る人を感じ動させる」。書作の根本にあった精神だろう。

「捨」という言葉の深い意味を問い合わせ、繰り返し作品にしました。18歳から始めた俳

句をさらりと書いた。シリーズも印象に残る。

そんな恩地さんが珍しく、2015年の書展で強い主張を明らかにした。過激派組織「イスラム国」(IS)に殺害されたジャーナリスト、後藤健二さんの一目を開じてじっと我慢怒つたら怒鳴つたら終わり」という言葉を添えた書「悲・怒りをこめて」。事件を契機に書の本質について

考えてみたと話してい

た。恩地さんの「遺言」となった。【桐山正寿】

第68回書道芸術院出品作品「悲」

2015年 第67回毎日書道展出品作品  
「捨」